



<維新の会と連立で高市新政権誕生、「明快で明瞭で力強く」「日本を前へ」の期待高まる>

・怒涛の10月が過ぎ去り、「日本の新たな一歩」へと踏み出し始めた。4日に高市・自民党新総裁が誕生したが、10日に公明党が連立離脱、15日に立憲民主・国民民主・維新の会が政権交代に向けた連立模索、直後に自民党・維新の会が党首会談し連立交渉に入ると発表、休日明けの20日に連立合意、21日に高市新首相が誕生し、新内閣がスタートした。どう転がるか目まぐるしい状況が続いたが、“高市早苗”が104代総理大臣の座を力強く手繰り寄せたドラマの展開に合わせて日経平均株価は乱高下、20日に高値「4万9945円95銭」と初の5万円目前に迫り、公明党離脱で14日に安値「4万6544円05銭」まで急落、6~24日の値幅は「3401円」にも広がった。

・しかし、先月に指摘した通り日本株上昇の勢いは加速、高市総裁・首相の誕生で加速感が増した。小泉氏を破って総裁となった直後の「高市トレード」で日経平均株価は6日に「4万7944円76銭」とNYダウを追い越し一気に未体験ゾーンに突入、その後も上昇が継続しNYダウとの数値上の差を広げている。「高市トレード」は理解し易い。この10月、“高市早苗”が発する言葉と表情は“非常に明快で明瞭かつ力強い”。公明党を含めた野党・党首の発言はいずれも“グニャグニャ”していて分かり難く、ましてや前首相は“フニャフニャ”で聞くに堪えなかった。

・もう一人、“非常に明快で明瞭かつ力強い”政治家がいた。維新の会の吉村代表だ。吉村代表は今回、頻りにテレビに登場したが、実は幕張メッセで開催していたCEATECの最終日の17日にクロージングセッションで「万博のレガシーを継承し、大阪・関西から未来を切り拓く」というテーマで講演した後に4人でのパネルディスカッションを行った。私はCEATECの取材とともに、一番前の席で吉村代表を目の前でじっくりと味わうことが出来た。実に明快で明瞭で力強いとの印象を更に強めた。この“明快で明瞭で力強く熱量の高い”コンビが揃って「日本を前へ」と宣言した。高市新首相は新内閣を「決断と前進の内閣」と称し、24日の所信表明演説で「強い経済を実現して行こうではありませんか」と呼びかけ、「日本列島を強く豊かにし、日本を再び世界の高みに押し上げる」との言葉で結んだ。約30分に及んだ所信表明演説の内容は、山積する日本の様々な課題を列挙し、トップスピードで解決して行くと力強く宣言した。高市新首相の“明快、明瞭、力強さ”は、師匠であった安倍元首相を上回っている気がして、期待は高まる。

<一気に日経平均5万円突破は6万円への通過点、注目企業は三菱重工、日立、半導体関連>

・10月27日は歴史的な1日になった。日経平均株価は前日比1212円67銭高で終値「5万512円32銭」と5万円の台を一気に超えた。前週末にNYダウとNASDAQ総合指数が揃って大幅高で史上最高値を更新、しかも、米中貿易摩擦の緩和、高市首相の順調な外交デビューなど、好条件が重なった。今後もしばらく、不安要因は出てこない。なおかつ、26年4~9月期(中間)決算の発表が相次ぐが、米国関税交渉の決着、高市首相の積極財政、想定以上の円安定着、AI・半導体分野の投資加速、などを背景に業績は好転し増額修正されよう、すなわち、右図に見る「予想EPS」は一段と高まり、更には“変わる日本”に対する期待の高まりで「予想PER」も一層、上昇しよう。つまり、日経平均株価は5万円台を駆け上って、次の大きな節目「6万円」を目指す展開となるのは、もはや必然。注目企業は、高市首相の所信表明演説のキーワード「原子力、防衛力増強、AI、量子、データセンター」などからズバリ、三菱重工、日立、半導体関連と考える。